



安藤 立美

地方独立行政法人東京都立病院機構 理事長

集中 OPINION

都立病院の独法化2年の成果とは スケールメリット生かし体制強化

——理事長に就任した経緯を教えてください。

安藤 理事長は都知事が任命します。選定に当たり、大きな組織のマネジメント経験が有り保健医療分野にも知見が有るとして、小池百合子・都知事が判断されたと聞いています。私は都の福祉保健局長や財務局長を務めた後、副知事を5年務めました。その経験が役立つならと引き受けました。都立病院の経営に関わるポストの為、医師が適任だと思われる方もいるでしょうが、当機構は約1万5000人を擁する大きな組織で、地域医療にも関わり各区市

町村の状況等も踏まえないならならぬ。そうした点では行政経験が有った方が良いと思います。経営陣には医師もいますから、行政と医療のエキスパートと一緒に経営をしているというのが現状です。

——独立行政法人化の背景や目的は何ですか。

安藤 都立病院を都が直接経営していると、地方自治法や地方公務員法の制約を受けると、地方自治の働き方改革への対応等、多様な働き方が求められる中で、社会の変化に対応し、機動的、効率的な病院運営の在り方について議論を重ねた結果、地

東京都が、100%出資の地方独立行政法人東京都立病院機構を設置して都立病院やがん検診センター等15の施設を傘下としたのは2022年7月。柔軟な病院運営を実現すると共に、専門性の高い医療人材を確保し、育成するのが目的だった。発足当初から新型コロナウイルス感染症への対応に追われたが、独法化から2年が経過し、病院の経営体質の強化や人材育成は進んでいるのだろうか。東京都職員として保健医療行政や財務に携わり、副知事を務めた経験を買われ、初代理事長に就任した安藤立美氏に、この2年間を振り返っての成果や課題を聞いた。

続きを読むには購読が必要です



提供を制を一層
ますが、その
ます。その
いますか。

が可能ななり
度構築して
安藤 人材確
れ迄より柔軟で機動的に人材確保
詳細はホームページをご覧ください